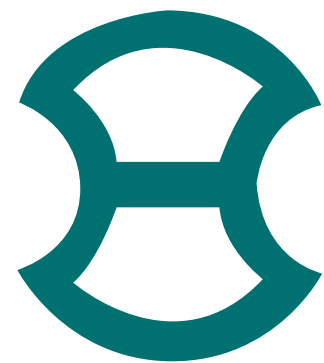


ニチメン大阪社友会

会 報

No.34
最終号



<https://www.nmos-shayukai.com>

2024 Apr.

もくじ

—第 34 号—

1) 令和 5 年度臨時総会および 令和 6 年新年互礼会のご報告	1
2) 会長挨拶	岡崎 謙二	2
3) 来賓挨拶	泉谷 幸児	5
4) 乾杯の音頭と挨拶	田中 勤	7
5) 米寿お礼挨拶	米田 信一	8
6) 令和 5 年度臨時総会アルバム	1 1
7) 令和 6 年新年互礼会アルバム	1 2
8) 春の親睦ウォーキング ご報告	2 1
9) 社友会からのお知らせ	2 5
1 0) 訃報	2 6
1 1) 令和 5 年度ニチメン大阪会員名簿	2 7
1 2) 世話人連絡先	2 9
1 3) 編集後記	3 0

令和 6 年 臨時総会および新年互礼会のご報告

本年 1 月 16 日に臨時総会と新年互礼会がホテル阪神大阪において開催されました。

臨時総会：

当会およびニチメン東京社友会、日商岩井社友会、双日社友会の 4 社友会の統合の方向性の承認（第 1 号議案）と当会最終年度決算の方針の承認（第 2 号議案）の 2 議案をお謀りしたものです。両議案とも出席会員の多数の賛成にて承認されました。詳細は会員の皆さんに送付済みの報告書どおりです。

新年互礼会：

臨時総会終了後、恒例の新年互礼会が開催され会員 79 名（役員含む）と来賓 6 名の合計 85 名の参加で例年通り盛大に行われました。

令和 6 年 新年互礼会参加者

1. 来賓

双日株式会社

1	泉谷 幸児	常務執行役員 関西支社長
2	高濱 悟	常務執行役員 株式会社JALUX代表取締役社長
3	岡村 太郎	執行役員
4	田中 勤	顧問
5	岡田 大輔	人事部長

☆ 出席者数：

来賓 6 名

会員 63 名

世話人 16 名

合計 85 名

ニチメン東京社友会

1	新藤 孝	副会長
---	------	-----

2. 会員

1	石黒 佐知子
2	市川 恭平
3	市磯 正夫
4	市田 謙治
5	稲治 寿
6	井上 行芳
7	井上 裕
8	今井 健児
9	上房 康成
10	大場 俊雄
11	小笠原 功
12	越智 隆
13	川田 英之
14	金谷 安勝
15	菊澤 淳
16	内蔵田 卓
17	小上馬 昭雄
18	米田 信一
19	澤井 昂三
20	澤山 操
21	新家 世津子

22	末信 楯次
23	杉本 潤
24	杉山 文子
25	高橋 正
26	高道 利夫
27	宅 哲男
28	龍田 いつよ
29	田中 三郎
30	谷 裕子
31	辻川 洋
32	辻山 隆博
33	鶴井 義子
34	徳永 万里子
35	殿護 隆司
36	中山 温亘
37	永山 克彦
38	野田 稔
39	萩原 捷一郎
40	橋本 典子
41	濱田 正
42	廣岡 松治郎

43	廣岡 義夫
44	藤崎 恭典
45	藤澤 由紀子
46	藤田 康弘
47	前田 和代
48	牧野 健治
49	三浦 秀信
50	美川 広則
51	溝口 正子
52	三宅 通方
53	宮永 大助
54	村松 正司
55	八木 郁充
56	矢嶋 正孝
57	柳田 麻千子
58	山野 ひろみ
59	山村 保
60	山邑 陽一
61	横田 穰治
62	吉本 邦晴
63	四ツ碓 明也

3. 世話人

1	伊豫田 哲
2	岩木 直純
3	岡崎 謙二
4	阪上 剛
5	千束 恒夫
6	龍田 誠一
7	西田 恵美子
8	畑 邦子
9	林 喜久雄
10	日野 育子
11	藤井 利雄
12	松下 和生
13	森 慈郎
14	吉岡 辰雄
15	吉田 修一
16	渡邊 康

令和 6 年臨時総会 会長ご挨拶

ニチメン大阪社友会 会長

岡崎 謙二



新年明けましておめでとうございます。皆様お元気で、ご参集いただき誠に有難うございます。

扨て、新年早々、能登半島地震更にそれによる津波による大災害、海上保安庁機と日本航空機との衝突という、悲惨な出来事が続いています。また、当社友会でも、昨年9月以降本日現在までに判明した11名の会員の方々が、お亡くなりになられています。1月10日には、当社友会の初代会長を勤められた田淵様がお亡くなりになりました。ここで、亡くなられた皆様方に対し、黙祷をささげたいと思いますので、恐れいりますが、その場で、座ったままで結構ですので、黙祷をお願い致します。(黙祷)有難うございました。

これより新年互例会に入りますが、それに先立ち、まずは、昨年より持ち越されてまいりました「統合」に関しての臨時総会を開催し、「皆様にご審議して頂きたいと存じます。皆さまの活発なご意見をよろしくお願いいたします。

昨年の7月4日に双日(株)の藤本社長より、「双日に合併してから、すでに今年で、20年の節目になるので、4つの社友会を統合して貰いたい」との要請を頂き、9月より、統合チームを交え、いろいろ検討を重ねた結果、詳細は未だ未定のところもありますが、最終案を本日皆様にお諮りすることとなりました。当社友会は2007年に716名の会員様の自発的な盛り上がりで、スタートしました。延べ人数で行きますと、936名ですが、それから、ご逝去されたり、退会されたりで、現在は367名と約半数となり、新規入会者もあまり見込めず、徐々にじり貧状態になり、1～2年以内に赤字に転落を余儀なくされる所でありました。正直な話、2019年当時もこの傾向が顕著に表れて来ており、当時かなりの危機感を持ち、各社友会が集まり、相談して、双日(株)に支援金の増額をお願いしようと将に動く直前に、コロナ感染症という予期せぬ事態が発生し、活動を一切休止することになりました。

この予期せぬコロナ感染症により、収入は変わらないが、支出がほとんどストップした3年間という貴重な猶予を貰いました。しかしながら、言っても先が見えて来ており、今後は、会員の皆様にもそれなりのご負担をして頂かなけ

ればならないと役員一同でいろいろ検討していた矢先、この統合の話でありました。皆様の中にはいろいろなお考えもあろうかと思いますが、今後続いてくる後輩達にも喜んで社友会に参加して頂き、将来に亘って継続して貰いたいとの思いで我々は「統合」に舵を切った次第であります。

まだ統合の細かな話し合いは続いておりますが、大まかなところがほぼ決まった段階となりましたので、臨時総会にお諮りし、この方向性の承認と決算までの作業については我々役員に一任して頂きたいとの議案を提出させていただきましたので、よろしくご審議のほどお願いいたします。

以上



令和 6 年新年互礼会 会長ご挨拶

ニチメン大阪社友会 会長

岡崎 謙二



本日は、お忙しい中、ご参集いただきまして誠に有難うございます。

先ほど開催いたしました、臨時総会で「4社友会への統合」をご承認いただきまして誠に有難うございます。それでは、これよりニチメン大阪社友会としては最後になります「新年互例会」を開催致します。まずは、新年を寿ぎまして、一言年頭のご挨拶を申し上げます。

改めまして、「令和6年 ニチメン大阪社友会・新年互礼会」をご案内いたしましたところ、来賓の方々を含め、90数名の参加希望を頂きまして誠にありがとうございます。

最近の世界情勢を思えば、2019年12月のコロナ感染症に始まり、2022年2月にスタートしたロシアによるウクライナ侵略戦争、更には、昨年勃発したイスラエルによるガザ地区への突然の攻撃、などなど世界は急激に変動しております。更には、今年は、台湾で、先日開票を終え、民進党がからくも、勝ちましたが、

今後あの中国がどう出て来るか？予断の許せないところ。更には、ロシア大統領選、アメリカ大統領選、など、世界の動向を左右する可能性のあることが次々と起こって来る予定になっております。その他、欧米各国でも、ウクライナへの支援疲れが出て来ていますが、民主主義を維持するためには、ここは最後まで頑張ってくださいと思います。金利の動向、それにより為替がどうなるか？株式市場が、現在うなぎ上りに上がって来ておりますが、今後どうなるか？全く予断を許さぬ経済情勢、更にはCO2排出に端を発する地球温暖化問題などが続きますが、是非とも、今年こそは何とか明るい年となりますように、年金受給者である私たちは、ただただ祈るしかないのは、まことに残念であります。

その中でも、双日（株）様のご活躍は素晴らしいものですが、今年は社長交代を断行され、若き指導者の下、益々ご発展を遂げられることを願っております。本日は、双日（株）より常務執行役員の泉谷関西支社長様、他双日の役職員の方々にもご出席いただいております、統合後もいろいろとお世話になりますので、引き続きよろしく願いいたします。

最後になりましたが、本日、会場にご参集頂きました皆様方のますますのご健勝とご多幸を願い、また、双日（株）4月よりスタートする新双日社友会のますますの発展を祈念いたしまして、私のご挨拶とさせていただきます。

以上

令和 6 年新年互礼会 来賓ご挨拶

双日株式会社 常務執行役員
関西支社長 泉谷 幸児



ただいま ご紹介に預かりました双日関西支社長の泉谷でございます。

双日を代表いたしまして一言ご挨拶申し上げます。

まずは、新年早々の能登半島地震という大きな災禍により亡くなられた方への心からの哀悼の意を表すとともに、多くの被災者の方々の早期のご快復と現地の早期復興を心よりお祈りいたします。この災禍を無駄にせず、人間の叡智をもって幸福につなげて行きたいと願っています。

さて、あらためまして 皆さま新年あけましておめでとうございます。

今年は「甲辰」（きのえ・たつ）という干支の年です。物事のスタートを示す「甲（きのえ）」と「竜」（りゅう）を意味する辰年は、「天高く大きな成長と幸運に恵まれる」年とのことです。双日にとりましては 2024 年は新たな「中計 2026」がスタートの年であり、皆さまご存じ

のとおり、藤本社長体制より植村新社長へのバトンタッチとともに、新たな双日の将来を描く門出の年です。思い起こせば、双日として新しいスタートを切ったのが 2004 年 4 月 1 日、2024 年はわが社の 20 周年という成人の年となります。この 20 年の間、多くの課題に正面から向きあい、その時代を担う社員の熱き想いと、諸先輩、OB の皆さまの深いご理解とご支援によって、双日は双日らしくしっかりと成長を遂げています。私自身、統合前夜の経営企画部にいた経験もあり、その当時を思い起こせばまさに隔世の感といいますか、「一念通天」を果たしていると思います。財務体質の飛躍的な改善と果敢な事業投資からのリターンも、しっかりと確認できるレベルになりました。

そして記念すべき 20 周年というこの年にニチメン、日商岩井社友会の統合により、新しい双日社友会の門出の年となるという、この歴史的一步を諸先輩の皆さまとご一緒できることを大変幸せに思います。また本日が最後のニチメン大阪社友会 新年互礼会となりますが、今まで本会をまとめ上げてこられました 岡崎会長を始め幹部、関係者の皆様のご尽力に敬意を表し、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

世界を見渡せば、今年は主要なる国家でその代表を選ぶ選挙が控えていますし、地政学的なリスクは益々深刻さを深めています。まさに不透明・不確実な環境が続く可能性は高いわけですが、今、最も大事なことは、日本人が日本の

良さをしっかり認識して、世界の中でも日本人だからこそのことをしっかりやっていく、私は、これしかないと思います。あの羽田空港で起こった JAL 機と海上保安機事故における、379 名の救助の奇跡は改めて、この民族性の高さを示していますし、世界の中の日本の役目を感じました。歴史的にも、如何なる災禍に対しても、その環境に順応・適応し、自ら変化していく「しなやかさとしたたかさ」をもって、しっかりと根を張り花を咲かせてきたのが日本であると私自身は大いに誇りに思っています。

そして、商社という日本固有の事業組織が、世界からその価値と存在を認められ各社ともに大きく評価を上げています。伊藤忠も時価総額 10 兆円超えの仲間入りを果たしています。双日もぜひまずは 1 兆円超えと PBR 1 倍を達成し、中計 2023 でお約束したすべての経営指標の達成を果たしたいと思います。のぼせることなく、真摯に誠を尽くし、今からも「たゆまぬ変化への挑戦」により、まさに持続的な成長を果たす生命体でありたいと思うわけです。

今年を歴史的な節目の年と位置付け、そして 2030 年、2050 年に向けて大いに双日の成長の軌道を示し、今年も OB の皆さまと高い配当を期待したいと思います。

最後となりますが、本日まで来場の皆さまとご家族のご健康とご健勝を祈り、また新たな双日社友会の益々の発展をお祈りしまして、簡単ではございますが私のご挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。



令和 6 年新年互礼会 乾杯の音頭とご挨拶

双日株式会社 顧問

田中 勤



私は '81 年に入社しました。当時はニチメン
實業の名前でした。その後ニチメンになり 23
年間、双日で 20 年と合樹役員 3 年間で商社に
働けたという思いがあります。本日も諸先輩方
のいろいろとお話されました今回の統合の件
は、いろいろご意見もあろうかと思いますが、
やはり統合して大きな人数となってそして双日
という会社のもとで皆さんとコミュニケーション
よくやっていけたらと思っています。

今年もいろんなことがあるのでしょうけど、
まずは皆さまのご健康とご多幸そして双日の
益々の発展を祈念しまして乾杯をしたいと思います。

それでは皆さまよろしいでしょうか、乾杯！！



米寿のお祝い御礼のご挨拶

慶祝者目録贈呈スピーチ

ニチメン大阪社友会 会長

岡崎 謙二

それでは、恒例によりまして、本年、目出度く、99歳の白寿を迎えられる1名様と88歳の米寿をお迎えになられます29名様に対し、お祝いのセレモニーを開始します。皆様とともに喜びを申し上げたいと思います。皆様方が、これからますますお元気でお過ごしいただき、米寿の方々も、次回の白寿をお元気で、迎えられることを願っております。

以上

ニチメン大阪社友会 米田 信一



本日のニチメン社友会は最終回となるようでこの記念すべき社友会において米寿になるメンバーの代表として御指名により御挨拶をさせて頂く機会を与えていただきありがとうございます。

私の個人的なニチメンとの関わりを簡単にご紹介させていただきます。

私は親子2代にわたり約95年間をニチメンとすごさせていただきました。

父親は大正13年に日本綿花に入社致しました。何故日本綿花に入社いたしましたかと申しますと当時日本綿花の第7代社長をして居られた喜多又蔵氏は父と私の郷里奈良県御所市の出身であったからです。日本綿花は当時日本一の綿花商で広く海外に雄飛していた日本有数の貿易商社であったからです。喜多又蔵氏は第1次世界大戦のパリ講和会議に日本全権として派遣された西園寺全権団の財界代表として関西財界から1人選ばれた著名な財界人でした。

父は入社と同時に当時のオランダ領東インド、今のインドネシアのジャワ支店に23歳で駐在しました。私も父と母に連れられて2歳から5歳まで日本綿花スラバヤ支店で過ごしましたが大東亜戦争が始まる昭和15年6月に父を残して一足先に母と帰国しました。今でいう帰国子女のハシリです。

父は大東亜戦争が始まると同時にオランダ軍に捕虜として捕まりオーストラリアやアフリカのマダカスカル島まで連れまわされ、昭和17年に捕虜交換で帰国しましたが昭和18年に社命でニチメン青島支店長として再度渡航しました。昭和20年8月の敗戦と同時に八路軍の捕虜となり戦後2年間は行方不明でしたが突然私が小学生の時に帰国しました。当時の日本綿花は500名にも上る復員社員を一人も首を切らず全てを受け入れましたが戦後の2-3年は皆、鍋やカマや唐傘を売って無給で働いたそうです。

米寿を受けられた皆さんからの礼状 ご紹介

本日米寿のお祝いをいただきました。御礼を申し上げます。

明日の互例会に出席させていただく予定でしたが、急用ができ欠席となりました事
申し訳なく思っております。皆様によろしくお伝えください。

まずは御礼まで。

= 津田 和男 =

心温まる米寿祝受け取りました。ありがとうございます。

米寿を迎え足腰の衰えは避けようありませんが何とか自立生活を送っています。

残り少ない余命心安らかに送りたいと思っています。

= 安森 敏博 =

米寿のお祝い金慎んでお受け致します。

ニチメン大阪社友菓子の今後の発展と役員皆様の御多幸と御活躍をお祈りいたします。

= 高木 啓志郎 =

この度は米寿を、迎えるにあたり長寿のお祝いを頂き厚く御礼申し上げます。

5月にはささやかながら内祝いをする事になっており子供や孫が集まりので楽しみにしております。

寒さ厳しい折からくれぐれもご自愛ください。

= 池内 孝文 =

寒気もいちだんと厳しさを増した今日このごろいかがお過ごしでしょうか。

この度はお心のこもった米寿のお祝いを頂戴しまして誠に有難うございます。

まずは略儀ながら書中をもって御礼申し上げます。

= 塩見 宗太郎 =

この度は思ひもよりませぬ長寿の御祝いとして誠にありがたき御品を賜りまして感謝の極みでございます。

顧みますと昭和三十七年 日綿實業株式会社に入社を許され 財務部十年、沖縄支店二年半（当時沖縄
国際海洋博覧会開催）その後審査部へ、二番目の会社は大和紡績の子会社へ、こちらでも審査関係の
仕事を十年間携わりました。

兄は小生と同期であります林 靖様の後を引継がれました。

多様な局面にもかわりませず見事に重責を果たしておられます。その万分の一を思い頭が下がります。

改めまして一月十六日頂戴いたしました目録を再度三読させていただきまして感慨無量でございます。

寒暖の差増々厳しい今日この頃、兄におかれましては、さらにご自愛一倍下されます様心よりお祈り
いたしております。

= 山木 信一郎 =

令和 5 年度臨時総会 アルバム



令和 6 年新年互礼会 アルバム



















第23回ニチメン大阪社友会 「春の親睦ウォーキング」ご報告 (2024年3月27日開催)

平成19年に長月会に代わり発足したニチメン大阪社友会は、其の後4年を経過した平成23年に会則第2条に定める目的に沿って、春の京都・東山を皮切りに春秋の年2回ウォーキングが開催されてきました。

春は桜、秋は紅葉を愛でるとともに「頭と足を鍛えれば、寿命は5年伸びる」のキャッチフレーズの下、会員相互の親睦と健康維持を目指し、平均20名の会員に参加していただきました。今回が23回目となりますが、発足以来暴風雨による1回とコロナ禍の影響で3回中止とした以外は、関西方面の主だった景勝地を訪れて来ました。

御承知の通り4月1日をもって現在の社友会が双日社友会に統合されることとなり、従ってニチメン大阪社友会としてのウォーキングは今回をもって最後となります。桜が鑑賞できて最後のウォーキングに相応しい場所をと検討の結果、JR環状線桜ノ宮駅から大川沿いに肥後橋までを散策してもらうこととしました。温暖化の影響もあって桜の開花時期が早まってきていることと、ニチメン社友会の開催といたく、例年よりも早めの3月27日に実施することにしました。

開催日が近づくと菜種梅雨もあってか不順な天候が続く、当日の天候と開花状況が気になっていましたが、前日の大雨が嘘のようにさわやかな青空が我々を迎えてくれました。ただ残念なことに大川端の桜は数個のつぼみがわずかにほころんだのを見られたのみの花見となってしまいました。

桜ノ宮駅10時集合にあわせて21名の会員にお集まりいただき、先ずは源八橋まで軽く足慣らし。





橋の袂の階段を下りて川面沿に開花には今暫くの時が掛かりそうな桜並木を見ながら桜宮橋を抜けると、対岸に造幣局を望みます。ここで川面から左に少し離れ旧藤田邸庭園入口を目指し、ソメイヨシノと違いすでに開花している桜や辛夷の花を楽しみながら庭園内を散策。

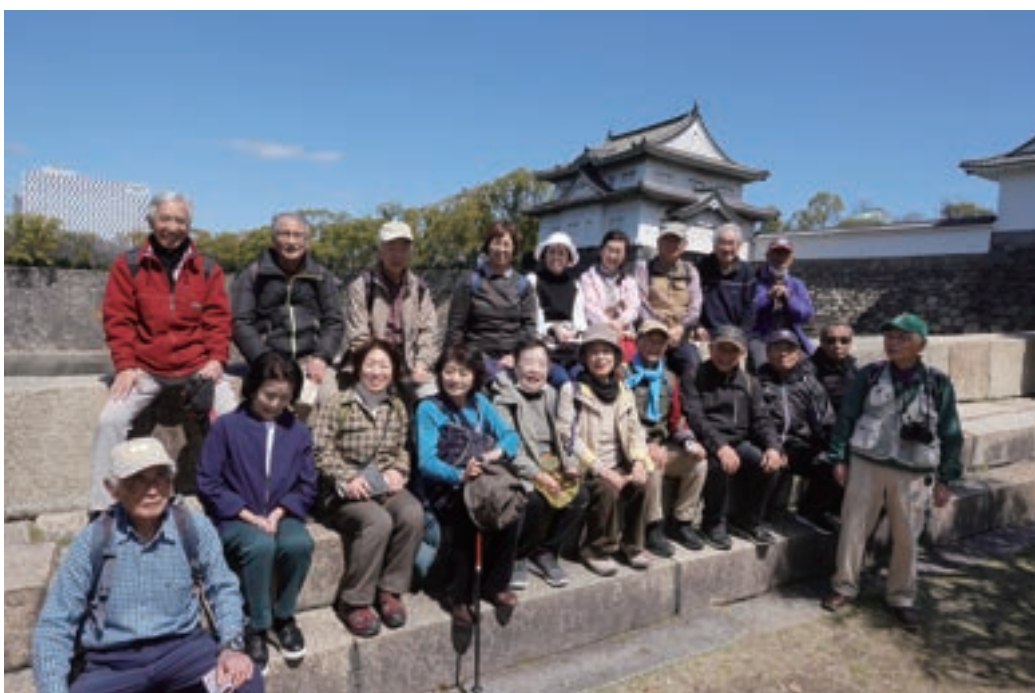
庭園に別れを告げて旧大阪市長公館横を通り、大川に戻ります。

桜の季節になると、我々のように大川端から鑑賞する人がほとんどですが、中には水陸両用バス、屋形船や水上バスに乗って川面から花見を楽しんでおられる方も見受けられます。

今後機会がありましたら川面から花見を楽しんで見られるのも如何でしょうか。



壮麗で優美と評判の大阪城の桜を堪能いただくつもりで、京橋口から大手門経由西の丸庭園を目指し歩を進めたのですが、残念ながらここでも開花した桜には出会えず、その時の判断で西の丸公園には入りませんでした。最終目的地への到着時刻に影響がでることも考え、残念ではありますが元のルートに引き返していただく事にしました。



再び大川に戻って、八百八橋の1つ川崎橋を渡り今度は右岸に移ります。天満橋をくぐるとそろそろ昼食の時刻となり、思い思いの場所でランチタイムを楽しんでいただきました。

愈々後半の行程です。天神橋までたどり着くと階段を下りて中之島公園に。



手入れは行き届いているものの、開花時期にはまだ早いバラ園を過ぎ、中央公会堂、大阪市役所を横目に御堂筋を渡ると右手に日本銀行大阪支店が、そして道を挟んだ西側に通い慣れた元ニチメンビルが現れます。

竣工当時は「睥睨」していたようにも思えたビルですが、高さ制限や建築基準の見直しがあつてか周囲の超高層ビルの間にひっそりと佇んでいるかのようでした。





もう 10 年近くも以前になりますが、2015 年に放映された NHK の朝ドラ（連続テレビ小説）「あさが来た」をご覧になりました？

四ツ橋筋を左に曲がり肥後橋を渡ると大同生命大阪本社ビルが出迎えてくれます。番組をご覧になった方は御承知と思いますが、三井家から加島屋に嫁いだ広岡浅子がドラマのモデルといわれ、同氏は大同生命の創業者とされています。また、同氏の夫広岡信五郎は日本綿花の創立発起人であり、3 月 29 日まで開催の広岡浅子展をご覧いただき、ニチメンと浅からぬ関係のある大同生命を通して来し方行く末に思いを馳せていただいたと思います。尚、ニチメンの OB・OG がこの特別展を拝見するという事で、大同生命さんの御厚意で案内をしていただき、理解が一層深まったと思われました。



ニチメン社友会としてのウォーキングは残念ながら今回で最後となりましたが、統合後の双日社友会でも同様の企画が計画されているものと思われます。新たなメンバーが参加されることで、出会い・発見・理解・協調といった効果が期待できるかも分かりません。

これからも親睦と健康維持のため奮って参加されることを願っています。

社友会からのお知らせ

○会員動静（令和6年3月31日現在）

☆令和6年 会員登録数 355名（内名誉会員 97名）
 ご逝去者 15名（内、本年度ご逝去者 15名）

☆新規入会者

会員番号	氏名	出身部
935	岩木直純	電子電機
936	杉本 潤	電子電機

○令和5年度（令和5年7月～令和6年3月）年会費入金状況

会員数	入金済会員数	名誉会員数	未納付会員数
355名	258名	97名	0名

☆令和5年度会報33号以降にご寄付を頂いた方々（誠にありがとうございました。）

岡 晴一郎様、島田 忠男様、田淵 弘通様、折尾 敏和様、高嶋忠夫様、鶴谷 武信様、
 丸橋 伸好様、橋本 勝太郎様、山本 敏夫様、佐藤 史郎様のご遺族さまよりご寄付を頂きました。

☆次年度以降の会費を支払い済みの方々には、今回の剰余金の分配時に返還いたしました。

○寄稿文を頂いた皆様のご紹介

創刊号以来、多くの皆さんから寄稿文をいただきました。お陰様で誌面を充実させることができましたので、感謝を込めてここに寄稿者の方々のお名前を掲げさせていただきます。

〈寄稿者氏名〉

（順不同 敬称略 ◎印は東京会員）

辻井準一	藤田康弘	早瀬三郎	柴田 隆	上田 浩	丸山修作
北川元衛	伊豫田 哲	高畠健造	園山春一	清水 浩	山本 彪
秋山 統	西山 隆	堀部 暁	島 悠紀夫	龍田誠一	若住 昇
加藤義民	橋本英雄	吉本邦晴	日野起男	與沢英五郎	神戸 護
大久保貫太郎	森 正子	佐武博司	大西隆夫	原 大	米田信一
高橋悦夫	有山和男	山邑陽一	林喜久雄	森 慈朗	中川十郎
木村 裕	池島幹生	福井大作	山田美緒	白水 汎	五十川暉夫
大久保・関岡・小上馬	田中稔昭	小笠原 功	水江誠一	松村信男	清水 浩
寺崎保典	山本正巳	河西郁夫	日野育子	吉田修一	野上 繁
南 直昌	高橋 正	殿護隆司	福井陽一郎	矢嶋正孝	岡島岩男
市口精一郎	鈴鹿美憲	高木亨一◎	向井健市	丸尾嘉重	龍田いつよ
岡崎謙二	北村禎敏	田中 実	橋本勝太郎	塩田 猛	奥村睦夫◎
神保慶三	木村幸史	松尾哲雄	尾子 明	金久正臣	畑 邦子
故玉田友英 恭子	白川清朗	大野 嘉	山本寧雄	中村吉夫	
中田龍彦	塩崎義雄	小林正幸	高橋康之	松田邦夫	
西田恵美子	田淵弘通	田中秀明	佐藤建義	京野 勉◎	
廣岡松治郎	宮内義彦	金谷安勝	神田久大	宅 哲雄	

○訃報 （会報 33 号に未記載及び、発行後にご逝去が判明した方々）

ニチメン大阪社友会

氏名	出身部門	逝去年月	享年
山本 敏夫	繊維	令和 5 年 08 月 02 日	96 歳
中田 公司	元会員	令和 5 年 10 月 29 日	85 歳
島田 忠男	繊維	令和 5 年 11 月 17 日	85 歳
岡 晴一郎	機械	令和 5 年 12 月 04 日	92 歳
田淵 弘通	元役員	令和 6 年 01 月 10 日	88 歳
折尾 敏和	北陸統括	令和 6 年 01 月 11 日	87 歳
尾子 明	繊維	令和 6 年 01 月 30 日	86 歳
丸橋 伸好	繊維	令和 6 年 02 月 06 日	93 歳
鶴谷 武信	北陸支店	令和 6 年 02 月 19 日	84 歳
高嶋 忠夫	合樹	令和 6 年 02 月 29 日	91 歳
佐藤 史郎	人事総務	令和 6 年 03 月 19 日	88 歳
橋本勝太郎	財務	令和 6 年 03 月 31 日	85 歳

ニチメン東京社友会

氏名	出身部門	逝去年月	享年
木皿 重正	機械	令和 5 年 10 月 26 日	76 歳
佐久間正光	繊維	令和 5 年 10 月 28 日	84 歳
吉水 稔	元常務	令和 5 年 11 月 11 日	84 歳
安武 国章	財務	令和 5 年 12 月 06 日	85 歳
五月女 讓	機械	令和 5 年 12 月 18 日	85 歳
西川 洋	合樹	令和 5 年 12 月 18 日	87 歳
大野 悦良	人事総務	令和 6 年 01 月 10 日	85 歳
堀部 暁	内地繊維	令和 6 年 01 月 11 日	72 歳
菰田 雅治	鉄鋼貿易	令和 6 年 03 月 09 日	確認中

令和 5 年度ニチメン大阪社友会会員名簿

(名誉会員 97 名)

青木 光弘	池内 孝文	池田喜久子	石川 秀雄	石黒 啓一
伊瀬 和良	伊藤 豊	稲垣 允子	今中 利昭	岩田録土郎
内田 満	宇都宮 暉	大久保貫太郎	大谷 昭三	大谷 正樹
岡島 岩男	岡田栄津子	岡村 俊三	小笠原 功	岡村 誠二
奥田 恵造	小野 悌司	金久 正臣	金森 巖男	神田 久大
菊澤 淳	北川 元衛	吉川 孝	桑原 艶子	小林 英一
小林 充幸	米田 信一	近藤 赳夫	斎藤 久	佐武 博司
佐野 信一	塩見宗太郎	清水 浩	白坂 泰之	荘司 和樹
白水 汎	杉山平太郎	炭谷 陽吉	高木啓志郎	高橋 康之
高畠 健造	宅 哲男	竹谷 良博	竹田 善英	田嶋 一恵
龍田 政彦	谷口 清	田上 正靖	玉置 和夫	玉田 恭子
田村 進平	津田 和男	津田 心美	津田 忠佑	寺崎 保典
東川 隆司	戸田 茂勝	殿護 隆司	富場 勝利	中山トメ子
西山 隆	温品 廣助	野坂 修平	野村 隆治	放岩 卓志
林 喜久雄	早瀬 三郎	原 榮	半林 亨	姫井 敬之
廣岡松治郎	広瀬 彰	松村 信男	松本 芳格	三浦 秀信
道上 正男	三村 容子	森 道夫	谷舗 弥生	安田 祐次
安森 敏博	山岸専太郎	山木信一郎	山口 俊男	山本 正巳
山村 保	山邑 陽一	横田 穰治	吉本 邦晴	四ツ碓明也
米原 正博	渡邊 城次			

(一般会員 258 名)

青山 和子	赤木 保司	安芸美千代	秋田 久子	浅井 十一
浅野 高代	穴水 鉄一	栗津 盛子	池田 文子	伊阪 千秋
石川 裕樹	石黒佐知子	石原 愛子	伊豆本善夫	磯林 市郎
市川 篤	市川 恭平	市磯 正夫	市田 謙治	伊藤 哲三
稲治 寿	井上 行芳	井上 裕	井上 好子	今井 健児
伊豫田 哲	入船 佳樹	岩木 直純	岩田 由佳	上田 雅司
上房 康成	植西 武司	上野 英治	植本 博	魚本健太郎
碓井 恭裕	内田 博夫	遠藤 雅也	恵美 理恵	大河原林次
大河内修二	大谷 林	大塚 敏雄	大藤 公彦	大西 隆夫
大庭 尚子	大場 俊雄	大山口一弘	岡崎 謙二	岡 図南雄
岡村 秀雄	岡本 幸雄	荻原 武志	奥田 雅治	奥谷 俊章
奥野 貞夫	小倉 知子	越智 隆	鍵本 孝三	梶谷 浩嗣
梶田 祐子	片岡 隆	加知 久一	加藤 紘一	門田 和子
金谷 安勝	金子 健治	川北 初美	川口 公生	川島 園枝

(一般会員)

川瀬 明彦	川田 英之	川村 耕造	菊地 孝	北川 剛
木村 武志	木村 幸史	清飛羅さとみ	久野 安正	久保田君子
久谷 淳子	内蔵田 卓	黒磯 哲雄	黒田 信宏	桑島 孝志
河野 欣司	高野 伸生	小上馬昭雄	後藤 政郎	酒井 邦子
坂上 剛	坂田 善則	崎野 有子	櫻井 秀子	佐竹 紀男
佐藤 建義	佐溝美登利	澤井 昂三	澤山 操	塩崎 義雄
嶋岡 房子	島 悠紀夫	嶋田 和哉	霜村加津代	白井 厚三
新家世津子	末信 楯次	杉江 信雄	杉本 潤	杉山 文子
千束 恒夫	高尾 博子	高橋 正	高次 保久	高道 利夫
竹本 史生	立花三重子	龍田いつよ	龍田 誠一	立田由貴子
田中佐知子	田中 三郎	田中 二彦	田中 長典	田中 実
田中 秀明	谷 祥四郎	谷 裕子	谷口 雅美	谷本 義夫
中所 壯	辻川 洋	辻本 明	辻山 隆博	土屋 賢二
津村菜穂子	轟井 義子	寺田 哲郎	寺野 幸夫	堂脇 一見
徳永万里子	冨田 邦子	田中 武俊	直江 義雄	中江 永好
中尾 良子	中沢 昭	中谷 容子	中野 雄次	半井 靖郎
中村 浩士	中村 文子	中村 吉夫	永山 克彦	中山 温亘
名和 克己	新川日出夫	新實 順子	錦織 昌一	西澤 隆司
西田恵美子	西村 公作	野田 稔	萩原捷一郎	橋本勝太郎
橋本 典子	長谷川 達	畑 邦子	服部 伸志	花輪 覇弥
馬場 宏三	濱田 誠紀	濱田 正	濱野 真弓	林 喜久雄
林 明	林 靖	播田 努	日野 育子	兵頭 俊幸
日余千鶴子	平井 啓次	平田 泰祐	平野井秀明	廣岡 義夫
藤井 兼盈	藤井 利雄	藤井 道久	藤澤由紀子	藤崎 恭典
藤田 康弘	藤野 義夫	藤本 和男	藤本 景子	藤原 純子
藤原なつよ	堀 啓子	本田 眞二	本東 千沢	前嶋 美和
前田 和代	楨 啓	牧野 健治	又吉 晴美	松岡 雄治
松下 和生	松田 悦子	松谷紳一郎	丸尾 嘉重	水江 誠一
美川 広則	美濃部幸夫	溝口 正子	南 千恵子	南 美樹
美馬 孝通	三宅喜久子	三宅 通方	三好 康司	宮崎 勝
宮永 大助	宮西信一郎	向井 健市	村上 勝治	村上 英樹
村上 幸史	村松 正司	森 かおる	森 慈郎	森 輝幸
森井 勇雄	森岡 豊美	森田 政利	八木 郁充	矢嶋 正孝
柳田麻千子	山香 和代	山崎 幸子	山崎 佳美	山敷 貞彦
山地 正房	山田 裕之	山出 信	山中 利一	山中 太一
山野 宝宏	山野ひろみ	山本善一郎	山本 浩	由本 宏二
吉岡 辰雄	吉田 修一	吉村 隆彦	米村 太一	若宮 勝治
脇屋敷憲嗣	鷺田 禎二	渡邊 康		

世話人連絡先

世話人名	(出身本部・部)	電話番号	メールアドレス
伊豫田 哲	(建設本部)		
岩木 直純	(電子電機本部)		
岡崎 謙二	(繊維機械部)		
阪上 剛	(化学品本部)		
千束 恒夫	(運輸保険部)		
龍田 誠一	(プラント部)		
西田恵美子	(木材部南洋材)		
林 喜久雄	(合成樹脂部)		
畑 邦子	(プラント第一部)		
日野 育子	(海外経理部・家族)		
藤井 利雄	(経理部)		
松下 和生	(建設本部)		
森 慈郎	(合成樹脂部)		
吉岡 辰雄	(繊維貿易)		
吉田 修一	(原動機部)		
渡邊 康	(財務本部)		



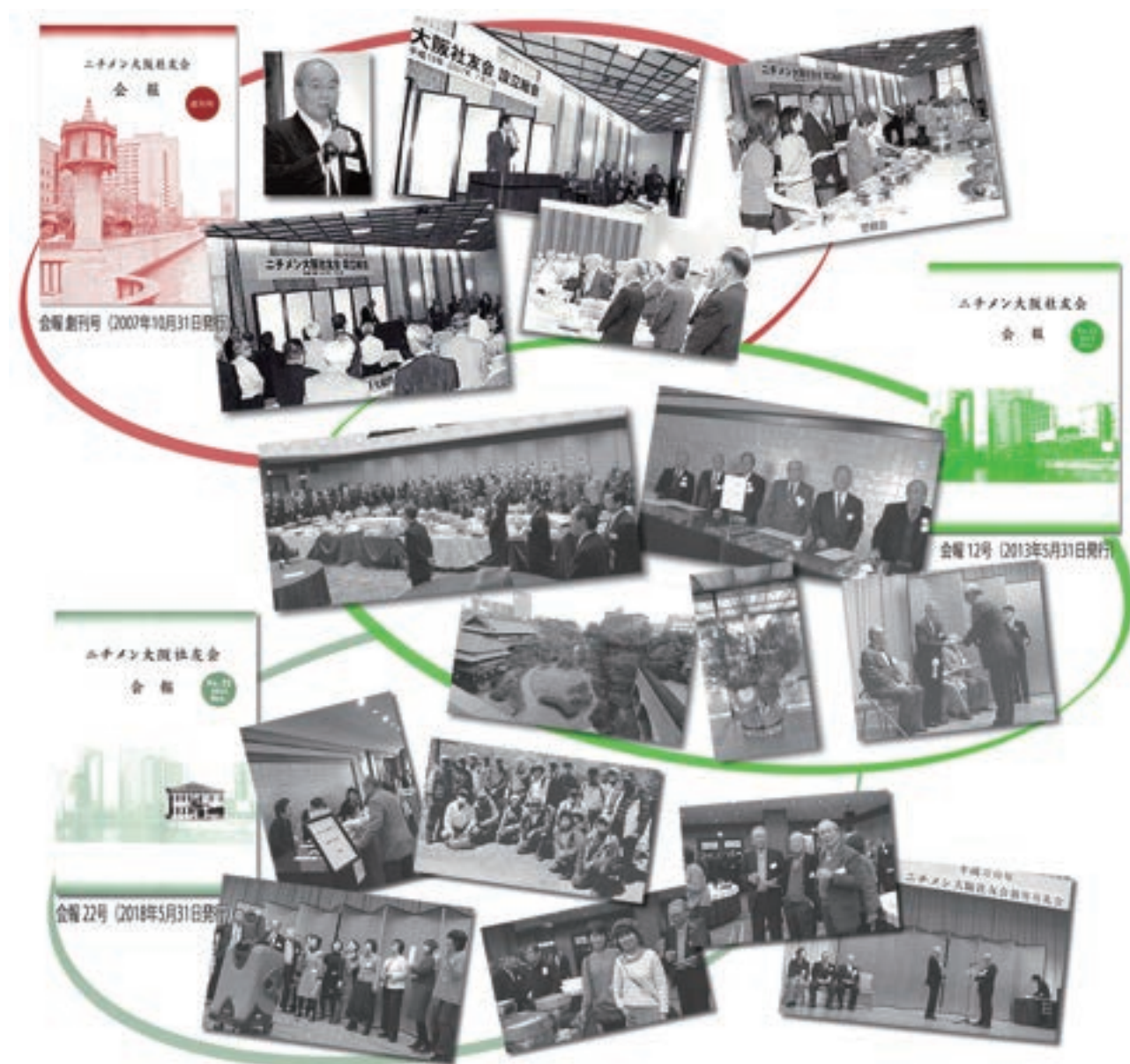
編集後記

今回でニチメン大阪社友会の会報発行は最後になります。

平成19年7月3日の設立総会にて716名の登録会員で発足しました当会は、今年(令和6年)4月にニチメン東京社友会・日商岩井社友会・双日社友会と統合し新・双日社友会に生まれ変わりました。当会会報も平成19年10月31日に創刊号を発行以来、今34号をもって最終号といたします。これまで毎号、総会や懇親会・新年互礼会の報告や会員動静・慶祝・訃報などの情報提供、会員の皆さんのOB会・同好会の報告、そして数多くの寄稿文を掲載して参りました。特に会員寄稿は、98名の皆さまから累計338篇に及び、そのテーマも現役時代の思い出、諸々の経験談、地域や歴史の研究、旅行記やエッセイなど様々な読み応えのあるものでした。改めまして寄稿者の皆さまにお礼を申し上げます。

いつの日か復活号を発行することを夢見て、ここは一旦店仕舞いをすることにいたします。

これまで長らくご愛読いただいた会員の皆さまに感謝申し上げますとともに、これからの皆さまの益々のご健勝をお祈り致します。



ニチメン大阪社友会 会報 No.34 (最終号)

発行日：令和6年4月30日

発行者：ニチメン大阪社友会

〒530-0001

大阪市北区梅田3丁目3番10号 梅田ダイビル18階

発行人：岡崎 謙二

編集担当

リーダー：千束 恒夫

メンバー：吉岡 辰雄、畑 邦子

ホームページ担当：富田 邦子

総務部アドレス：nichimenshayukai@outlook.jp

印刷所：日本紙交易株式会社（担当：前田 幸裕、榊原 芹野）

〒541-0043

大阪府中央区高麗橋4-1-1 大阪興銀ビル10階